

10 月ホームルーム

『国税専門官・財務専門官の試験情報』

国税専門官

1. 試験の流れ

申し込みから採用までの日程

流れ	日程	備考
① 申込み期間	3/18（金）～4/4（月）	2/1 に公告（受験案内配布）インターネット申込
② 1 次試験日	6/5（日）	労働基準監督官・財務専門官と同日程
③ 1 次合格発表	6/28（火）	人事院HP上でも合格番号を掲載
- 業務説明会等	-	国税局により実施の有無及び実施方法・時期が異なる
④ 2 次試験日	7/4（月）～7/15（金）	1 次合格通知書で指定された日に面接
⑤ 最終合格発表	8/16（火）	人事院HP上でも合格番号を掲載
- 採用面接	8/16（火）～8/22（月）	国税局により実施時期が異なる
⑥ 採用	4/1	原則として 4 月以降の採用

※受験資格：平成 4 年 4 月 2 日～平成 13 年 4 月 1 日生まれの人（21 歳以上 30 歳未満）

➡ 国税専門官試験は、上記の流れで試験が行われますが、国家一般職のように地域区分ごとの合否が出るものではなく、全国一律で実施されます。第 1 次試験及び第 2 次試験はそれぞれ受験に便利な 1 都市を選んで受験することができます。最終合格後は、各国税局（札幌・仙台・東京・関東信越・名古屋・金沢・大阪・広島・高松・福岡・熊本）及び国税事務所（沖縄）で行われる採用面接を通して各国税局（所）に採用されます。採用された方は、各国税局（所）管内の税務署で勤務することになります。

なお、採用面接を受けるためには事前登録が必要で、1 次試験合格者が、採用を希望する国税局（所）を 1 つ選び、採用面接登録書に記入して 2 次試験当日に 2 次試験を受験する国税局（所）に提出する仕組みとなっています。

税務署訪問・職場訪問について

➡ 一部の国税局では、「税務署訪問」「職場訪問」と呼ばれる機会を設けているところがあります。これは受験者が業務について理解を深めるための業務説明会の一種だといえます。実施の有無や時期はここ数年で変動がありますが、令和 4 年度の東京国税局では下表の通り、1 次試験後に実施がありました。

国税専門官試験における「税務署訪問」「職場訪問」は、国家一般職で行われている「官庁訪問」とは違い、内定（内々定）を獲得するための活動ではありません。したがって、訪問の有無が合否や採用に影響することはありません。しかし、業務について理解を深める良い機会になることは確かなので、志望度が高い方は積極的に訪問することをお勧めします。

例) 東京国税局管内 職場訪問対応日(抜粋)

麹町	令和4年6月10日(金)	荻窪	令和4年6月13日(月)	練馬東	令和4年6月10日(金)
神田	令和4年6月10日(金)	豊島	令和4年6月15日(水)	練馬西	令和4年6月14日(火)
日本橋	令和4年6月15日(水)	王子	令和4年6月14日(火)	足立	令和4年6月13日(月)
京橋	令和4年6月23日(木)	荒川	令和4年6月15日(水)	西新井	令和4年6月15日(水)
芝	令和4年6月16日(木)	板橋	令和4年6月22日(水)	葛飾	令和4年6月13日(月)

※東京国税局管内の税務署(84か所)の一部を抜粋しています。

2. 試験形式

1次試験

試験科目	解答題数	解答時間	備考
基礎能力試験(多肢選択式)	40題	2時間20分	全問必須解答
専門試験(多肢選択式)	40題	2時間20分	必須:2科目(16題) 選択:9科目中4科目(24題)
専門試験(記述式)	1題	1時間20分	5科目中1科目選択(2次試験扱い)

基礎能力試験	
現代文	6
英文	5
判断推理	6
空間把握	2
数的推理	5
資料解釈	3
小計	27
時事	3
物理	1
化学	1
生物	1
日本史	1
世界史	1
思想	1
地理	1
法学	3
経済	
政治	
小計(解答/出題)	13
出題数	40
解答数	40
解答時間	140

専門試験(択一)		
民法(6)	(8)	16
商法(2)		
会計学(8)		
小計(2科目必須)		16
憲法(3)	6	6
行政法(3)		
経済学(4) 経済事情(2)	6	6
財政学	6	6
経営学	6	6
政治学(3)	6	6
社会学(2)		
社会事情(1)		
英語	6	6
商業英語	6	6
情報数学	6	6
情報工学	6	6
小計(4科目選択/出題)	24/54	24/54
出題数	70	70
解答数	40	40
解答時間	140	140

➡基礎能力試験は一般知能分野の出題が27問と出題数の67.5%を占めています。受験案内では数的処理の出題内訳が数的推理5問、判断推理8問、資料解釈3問となっていますが、実際には判断推理の2問程度が空間把握となっています。

➡専門択一試験は2科目必須、4科目選択の計6科目解答制となっています。しかし、憲法と行政法のように複数の科目で1科目に相当するため、実質的には8~10科目を学習する必要があります。

※単なる併願で、志望度が低い場合は、他の試験種では出題されない会計学や商法の学習は負担が大きいため、無対策のままで受験する方も多くいらっしゃいます。

専門試験(記述式)

➡5科目(憲法・民法・経済学・会計学・社会学)各1題のうち、1科目を当日選択して解答します。試験は1次で実施されますが、採点は2次試験で行います。

2 次試験**個別面接形式（3：1）**

➡面接官は 3 人で構成されています。当日に持参する面接カードに沿って、15（±5）分程度の面接が行われます。また、2 次試験の際、人物試験の参考とするために質問紙法による性格検査（100 項目の質問に対して「はい」又は「いいえ」により回答：15 分）が行われますが、性格検査については特に対策の必要はありません。また、身体検査として胸部疾患（胸部エックス線撮影）、尿、その他一般内科系（呼吸器・循環器）の検査も行われます。身体検査については配点比率がなく、合否の判定のみを行います。

配点比率・基準点

国税専門官	試験種目	配点比率	基準点	
第 1 次試験	基礎能力試験	2/9	12	（40 問中 12 問以上の正答が必要）
	専門試験（択一）	3/9	12	（40 問中 12 問以上の正答が必要）
	専門試験（記述）	2/9	30	（100 点満点中 30 点以上の評価が必要）
第 2 次試験	個別面接	2/9	C	（A～E の 5 段階中 C 以上の評価が必要）

➡1 次試験の合否は「基礎能力試験＋専門試験（択一）」で決定されます。配点比率から考えると、この試験では専門試験（択一）の得点がより重要な意味を持つ試験種目といえます。また、全体に占める択一試験の比率が高いことも大きな特徴だといえます。ただし、それぞれにおいて、最低限必要な得点（基準点）が設定されていることに注意が必要です。択一試験では基準点（満点の 30%）に達しない試験種目が一つでも存在する場合、他の試験種目の成績に関わらず不合格となってしまいます。

また、専門試験（記述）は 1 次試験で実施されますが、2 次試験扱いになっています。1 次合格者を対象に評定し、得点化されます。ここでも、基準点（100 点満点中 30 点）に達しない場合は不合格になるので注意が必要です。

➡2 次試験で行われる個別面接では、受験者を A～E の 5 段階で評価しますが、D 及び E 評価になった者は、基準点を満たさない者として不合格になります。A～C 評価である者に対してのみ得点化します。

➡最終合格者については、1 次試験と 2 次試験の得点（標準点）を合計して決定されます。

採点方法（択一・記述・面接）

$$\text{標準点} = 10 \times \text{配点比率} \times \left(15 \times \frac{\text{素点} - \text{平均点}}{\text{標準偏差}} + 50 \right)$$

➡受験者の筆記試験の得点は、各試験種目の素点※ではなく、試験種目ごとに平均点、標準偏差を用いて上記の方法で算出した「標準点」を使っています。上記のカッコ内の式は、いわゆる偏差値になりますので、標準点とは、【10×配点比率×偏差値】ということになります。なお、標準点は小数点以下を切り捨てて表記されます。標準点の合計は概ね 0～1000 点の範囲になり、全ての試験種目で平均的な成績であれば、標準点の合計はおよそ 500 点になります。

素点※：択一式試験の場合は正解数、記述式試験の場合は複数の評価者による評点を総合した値

例) 基礎能力試験で平均点が 20 点、標準偏差が 5.5 点である場合、40 問中 25 問の正答数だと以下のように標準点を算出します。

$$10 \times \frac{2}{9} \times \left(15 \times \frac{25-20}{5.5} + 50 \right) = 141.414141 \dots$$

標準点 = 141

➡ 人物試験においては、各受験者について A～E の 5 段階で評価し、この評価結果が正規分布するものとみなして、各段階の標準点を算出しています。

3. 受験状況

倍率（過去 3 年）

国税専門官		採用予定	1 次試験		1 次合格者数	最終合格者数	受験倍率※		
			申込者数	受験者数			1 次試験	2 次試験	総合
年度	2022	1,400	14,867	11,098	7,283	4,106	1.5	1.8	2.7
	2021	1,500	13,163	9,733	7,415	4,193	1.3	1.8	2.3
	2020	1,350	14,131	9,052	7,189	3,903	1.3	1.8	2.3

※受験倍率（1 次試験）＝（1 次試験受験者数）÷（1 次合格者数）

※受験倍率（2 次試験）＝（1 次合格者数）÷（最終合格者数）

※受験倍率（総合）＝（1 次試験受験者数）÷（最終合格者数）

➡ 国税専門官試験は採用数が安定して多いですが、申込者数も採用予定数の 10 倍程度と比較的人気がある試験です。しかし、実際は申込者の 25～30% が欠席する傾向があることや、最終合格者数が採用予定数の 3 倍近いことなどから、実質倍率が 2 倍前後と比較的低い水準で保たれており、受験しやすい状況が続いています。最終合格者数が採用予定数の 3 倍前後になっているのは、辞退者が多いためだと考えられますが、最終合格者が記載される採用候補者名簿が 3 年間有効になっていることも、一つの要因だと考えられます。

採用実績

国税専門官	名簿確定日	名簿記載者数	採用者数※	辞退・無応答者数	採用候補者
2020 年	R2.10.13	3,903	1,377	2,281	233
2019 年	R1.8.20	3,514	1,151	2,341	34
2018 年	H30.8.21	3,479	1,153	2,300	24

※名簿搭載期間は 3 年間であるため、採用者数は過年度名簿からの採用者を含む

➡ 上表は、国税専門官試験の名簿記載者数及び採用者数を表したものです。表内の「採用候補者」欄はいわゆる名簿残存者（内定先が決まっていない者）になります。2018 年及び 2019 年の「採用候補者」は 3 年間の名簿登載期間を過ぎているため、採用漏れになった人数といえますが、その数は全体の 1% 未満となっています。また、2020 年の「採用候補者」は、資料が公表された時点ではまだ採用の可能性のある人数となっています。

国税専門官	①採用者数	②採用予定	採用率 (①÷②) × 100
2020 年	1,377	1,350	102.0%
2019 年	1,151	1,200	95.9%
2018 年	1,153	1,200	96.1%
2017 年	1,109	1,200	92.4%
2016 年	1,043	1,200	86.9%
2015 年	1,154	1,210	95.4%
2014 年	1,033	1,070	96.5%
2013 年	1,070	1,115	96.0%
2012 年	567	560	101.3%

➡上表の採用率は、採用予定に対する採用者数の割合を示したものです。その数値が 100%を下回ると、「定員割れ」していることを示します。国税専門官試験では、2013 年から 2019 年まで定員割れの状況が続いていましたが、試験日程が大幅な後ろ倒しになった影響もあり、2020 年では 8 年ぶりに 100%を越えました。

4. 試験分析

平均点

平均点・標準偏差	2022 年	2021 年	2020 年
基礎能力試験	21.265	24.407	22.175
(標準偏差)	5.001	5.292	5.407
専門択一	20.526	20.422	20.792
(標準偏差)	6.381	6.233	6.551
専門記述	52.390	53.813	53.046
(標準偏差)	14.567	16.695	19.168

➡上表は人事院が公表している平均点・標準偏差について直近 3 年分をまとめたものです。確認すると、基礎能力試験は平均点の変動がありますが、専門択一試験と専門記述試験はいずれも平均点に大きな変動がないように見えます。2022 年は基礎能力試験が難化したといえそうです。また、択一試験の標準偏差を比較すると、専門試験の方が常に基礎能力試験より大きいことがわかります。標準偏差とは平均値に対する「ばらつきの度合」を示すものです。その数値が大きければ大きいほど、できる人とできない人との点差が開きやすい試験だといえます。

データリサーチ

➡TAC では問題の持ち帰りが可能な主要試験種においてデータリサーチを行っています。本試験を受験した方から寄せられた情報をもとに各試験のボーダーライン予想などを提供しています。他にも参加特典がありますので、積極的に利用してください。

特に TAC で実施している国税専門官のデータリサーチは、他の予備校と比較しても最大の規模で、毎年 1600 人前後の参加があります。ただ、実際の受験者数の 10～15%前後のデータであることや、受験して手ごたえを感じた方の参加率が比較的高いこともあるため、実際の本試験よりも平均点が若干高くなる傾向があります。

基礎能力試験・分野別平均点 ～データリサーチより～

基礎能力試験	2022 年	2021 年	2020 年	出題数	例年の正答率
文章理解	7.8	7.7	7.8	11	70%前後の正答率
数的処理	8.3	10.4	9.3	16	55～65%の正答率
自然科学	1.5	2.0	1.4	3	40～60%の正答率
人文科学	2.4	2.4	2.7	4	60～70%の正答率
社会科学	1.7	2.5	2.1	3	70%前後の正答率
時事	2.1	2.2	1.7	3	60～70%の正答率
合 計	23.9	27.1	24.8	40	60～65%の正答率

➡各分野の実際の平均点はデータリサーチよりも低くなりますので、上記の数値を超えていなくても十分に合格することは可能ですが、学習を進めていく上では一つの目安にすることができるようでしょう。ご自身の得意不得意などを加味した上で、分野別に自分なりの目標値を設けて学習を進めていきましょう。

専門試験・科目別選択率 ～データリサーチより～

専門試験・科目別選択率	2022 年	順位	2021 年	順位	2020 年	順位
民法・商法	100%	-	100%	-	100%	-
会計学	100%	-	100%	-	100%	-
憲法・行政法	98%	①	98%	①	98%	①
経済学	62%	④	61%	④	74%	③
財政学	87%	②	89%	②	89%	②
経営学	58%	⑤	50%	⑤	55%	④
政治学・社会学・社会事情	69%	③	74%	③	52%	⑤
英語	8%	⑦	12%	⑥	12%	⑦
商業英語	13%	⑥	8%	⑦	13%	⑥
情報数学※	1%	⑧	4%	⑧	2%	⑧
情報工学※	1%	⑧	1%	⑨	1%	⑨

※2023 年より国税 B 区分（理工・デジタル系）が新設される予定のため、情報数学・情報工学は B 区分で出題される見込みです。

➡上表はデータリサーチにおける専門試験科目の選択率を示しています。
必須解答である民法・商法と会計学以外で、選択率が 50%を超える科目は網掛けになっています。年度による順位の変動はあるものの、憲法・行政法、経済学、財政学、経営学、政治学・社会学・社会事情の 5 科目が使われています。それ以外の科目については、選択している方はいるものの、選択率が低い状況です。

専門試験・科目別平均点 ～データリサーチより～

専門試験	2022 年	2021 年	2020 年	出題数
民法・商法	5.4	5.2	4.2	8
会計学	2.9	2.6	3.6	8
憲法・行政法	4.0	4.4	4.6	6
経済学	3.7	3.7	4.2	6
財政学	4.3	4.4	4.3	6
経営学	4.5	3.5	4.7	6
政治学・社会学・社会事情	4.2	4.1	3.7	6
英語	2.6	3.1	4.0	6
商業英語	2.9	3.0	4.4	6
情報数学	3.5	4.0	3.6	6
情報工学	4.0	2.5	3.0	6
合 計	24.5	24.0	24.7	70

➡上表の網掛け部分は平均点が出題数の 6 割以上である科目を示しています。科目別選択率と合わせて確認すると、科目の選択率の変化は難易度（平均点）の変化と密接な関係があることがわかります。当然ですが、民法・商法や会計学は必須解答であるため、難易度の変動とは無関係です。特に会計学は必須科目であるにも関わらず、平均点が低い（30～40%台）ことがわかります。これは、単なる併願受験者も多く、会計学を準備していない者が多いことを示唆しています。もちろん、本命であれば会計学を得点源にすることが得策ですが、志望度が低いようであれば、会計学を未学習の状態であっても大きく不利になることはないと考えてよいでしょう。

ボーダーライン

（合格点：標準点）

国税	1 次合格	最終合格	標準点差
2022	250	499	249
2021	222	478	256
2020	213	382	169

➡上表は人事院が公表した 1 次合格および最終合格のために最低限必要な標準点を表しています。特に 2020 年はコロナ禍による試験日程の大幅な変更があったため、例年よりも合格点が低くなり、1 次合格と最終合格の標準点差も過去最少の 169 点になりました。これは、専門記述および面接試験で基準点を上回れば最終合格できることを意味します。2021 年以降は、標準点差が 250 点前後で推移しているため、択一試験の得点がギリギリである場合、面接と専門記述の得点の組み合わせによっては最終合格を逃してしまうことになります。

国税専門家試験は、倍率面から 1 次合格しやすいイメージがありますが、他の国家専門職（財務・労基）や国家一般職試験よりも 1 次合格と最終合格の標準点差が大きいという特徴があるため、注意が必要です。

（専門記述・面接：標準点）

面接	A	B	C	D	E
2022	158	125	97	不 合 格	
2021	159	125	98		
2020	159	126	98		

記述	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	100
2022	59	71	82	94	105	117	128	139	151	162	174	185	197	208	220
2021	63	73	83	93	103	113	123	133	143	153	163	173	183	193	203
2020	71	79	88	97	105	114	123	131	140	149	157	166	175	184	192

➡上表は、人事院が公表した面接の評価別標準点と、データをもとに算出した専門記述の標準点です。1次で獲得した択一試験の標準点に、上記の専門記述と面接で獲得した標準点を加えた総合得点が、最終合格に必要な標準点を上回る必要があります。2021年で確認すると、1次試験が合格最低点（222点）であった場合、面接と記述で256点以上必要となりますので、面接がA評価だと、記述の評価は50点以上あればよく、面接がCの場合だと、記述の評価は75点以上の得点が必要になります。

【補足】専門記述試験の採点方法

➡専門記述の答えは2名の採点者によってそれぞれ独立に評価されます。採点は10点満点で行われ、2人の採点結果の合計をさらに5倍した値を素点としています。そのため専門記述の素点は上表のように5の倍数となります。この素点はさらに、平均点や標準偏差、配点比率をもとに標準点化されます。

➡下表は2022年の国税専門官試験において、合格に必要な得点についてまとめています。専門試験の得点を縦軸に、基礎能力試験の得点を横軸にとり、その合流点が択一試験の合計得点（標準点）となります。表内の網掛け（灰色）になっている部分が1次試験に合格できる範囲となります。また、昨年との比較についてもまとめていますので参考にしてください。

2022 国税専門官																																					
40	319	368	375	381	388	395	401	408	415	421	428	435	441	448	455	461	468	475	481	488	494	501	508	514	521	528	534	541	548	554							
39	311	360	367	373	380	387	393	400	407	413	420	427	433	440	447	453	460	467	473	480	486	493	500	506	513	520	526	533	540	546							
38	303	352	359	365	372	379	385	392	399	405	412	419	425	432	439	445	452	459	465	472	478	485	492	498	505	512	518	525	532	538							
37	295	344	351	357	364	371	377	384	391	397	404	411	417	424	431	437	444	451	457	464	470	477	484	490	497	504	510	517	524	530							
36	287	336	343	349	356	363	369	376	383	389	396	403	409	416	423	429	436	443	449	456	462	469	476	482	489	496	502	509	516	522							
35	280	329	336	342	349	356	362	369	376	382	389	396	402	409	416	422	429	436	442	449	455	462	469	475	482	489	495	502	509	515							
34	272	321	328	334	341	348	354	361	368	374	381	388	394	401	408	414	421	428	434	441	447	454	461	467	474	481	487	494	501	507							
33	264	313	320	326	333	340	346	353	360	366	373	380	386	393	400	406	413	420	426	433	439	446	453	459	466	473	479	486	493	499							
32	256	305	312	318	325	332	338	345	352	358	365	372	378	385	392	398	405	412	418	425	431	438	445	451	458	465	471	478	485	491							
31	248	297	304	310	317	324	330	337	344	350	357	364	370	377	384	390	397	404	410	417	423	430	437	443	450	457	463	470	477	483							
30	240	289	296	302	309	316	322	329	336	342	349	356	362	369	376	382	389	396	402	409	415	422	429	435	442	449	455	462	469	475							
29	233	282	289	295	302	309	315	322	329	335	342	349	355	362	369	375	382	389	395	402	408	415	422	428	435	442	448	455	462	468							
28	225	274	281	287	294	301	307	314	321	327	334	341	347	354	361	367	374	381	387	394	400	407	414	420	427	434	440	447	454	460							
27	217	266	273	279	286	293	299	306	313	319	326	333	339	346	353	359	366	373	379	386	392	399	406	412	419	426	432	439	446	452							
26	209	258	265	271	278	285	291	298	305	311	318	325	331	338	345	351	358	365	371	378	384	391	398	404	411	418	424	431	438	444							
25	201	250	257	263	270	277	283	290	297	303	310	317	323	330	337	343	350	357	363	370	376	383	390	396	403	410	416	423	430	436							
24	193	242	249	255	262	269	275	282	289	295	302	309	315	322	329	335	342	349	355	362	368	375	382	388	395	402	408	415	422	428							
23	186	235	242	248	255	262	268	275	282	288	295	302	308	315	322	328	335	342	348	355	361	368	375	381	388	395	401	408	415	421							
22	178	227	234	240	247	254	260	267	274	280	287	294	300	307	314	320	327	334	340	347	353	360	367	373	380	387	393	400	407	413							
21	170	219	226	232	239	246	252	259	266	272	279	286	292	299	306	312	319	326	332	339	345	352	359	365	372	379	385	392	399	405							
20	162	211	218	224	231	238	244	251	258	264	271	278	284	291	298	304	311	318	324	331	337	344	351	357	364	371	377	384	391	397							
19	154	203	210	216	223	230	236	243	250	256	263	270	276	283	290	296	303	310	316	323	329	336	343	349	356	363	369	376	383	389							
18	146	195	202	208	215	222	228	235	242	248	255	262	268	275	282	288	295	302	308	315	321	328	335	341	348	355	361	368	375	381							
17	139	188	195	201	208	215	221	228	235	241	248	255	261	268	275	281	288	295	301	308	314	321	328	334	341	348	354	361	368	374							
16	131	180	187	193	200	207	213	220	227	233	240	247	253	260	267	273	280	287	293	300	306	313	320	326	333	340	346	353	360	366							
15	123	172	179	185	192	199	205	212	219	225	232	239	245	252	259	265	272	279	285	292	298	305	312	318	325	332	338	345	352	358							
14	115	164	171	177	184	191	197	204	211	217	224	231	237	244	251	257	264	271	277	284	290	297	304	310	317	324	330	337	344	350							
13	107	156	163	169	176	183	189	196	203	209	216	223	229	236	243	249	256	263	269	276	282	289	296	302	309	316	322	329	336	342							
12	99	148	155	161	168	175	181	188	195	201	208	215	221	228	235	241	248	255	261	268	274	281	288	294	301	308	314	321	328	334							
専門 素点	標準 基礎	49	56	62	69	76	82	89	96	102	109	116	122	129	136	142	149	156	162	169	175	182	189	195	202	209	215	222	229	235							
		12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40							

1次試験合格点（標準点）	250	1次合格最低点（素点）	37	面接	A	B	C	D	E
最終合格点（標準点）	499	1次不合格最高点（素点）	39	標準点	158	125	97		

専記	素点	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	100
	標準点	59	71	82	94	105	117	128	139	151	162	174	185	197	208	220

2021年に比べ1次合格点（標準点）が28点、最終合格点（標準点）が22点上がっている。素点ベースで確認すると、2021年は基礎12+専門24=36点（45.0%）が1次合格の最低点であったが、2022年では基礎12+専門25=37点（46.25%）となっている。そのため、1次試験のボーダーラインは1点程度上がったといえる。また、最終合格点と1次合格点との差（249点）が大きいので、1次がボーダー付近の場合、専門記述の素点が平均付近（55点）であれば面接でA評価が必要で、面接の評価がCで専門記述の素点が70点未満であれば最終合格はできなかったことになる。

出題傾向・正答率

2022 年

基礎能力試験

専門試験

専門試験

No	正答率(%)		出題テーマ	No.	正答率(%)		出題テーマ	No.	正答率(%)		出題テーマ		
1	現 文	73	内容合致	1	民 法	56	法律行為	41	政 治 学	77	国際政治や政治理論等		
2		89	内容合致	2		89	不動産物権変動	42		51	利益団体と政策形成		
3		93	内容合致	3		69	譲渡担保	43		88	各国の政治制度		
4		89	内容合致	4		76	債権者代位権	44	83	シカゴ学派			
5		82	空欄補充	5		87	不法行為	45	67	リーダーシップ研究			
6		84	文章整序	6		84	婚姻	46	事情	63	我が国の雇用等		
7	英 文	61	内容合致	7	商 法	48	株主総会	47	英 語	30	内容合致		
8		41	内容合致	8		37	株式会社の機関設計	48		60	内容合致		
9		78	内容合致	9	会 計 学	46	一般原則	49		63	内容合致		
10		46	文章整序	10		53	資本会計	50		44	文章整序		
11		61	空欄補充	11		32	減価償却	51		19	空欄補充		
12	判断	41	集合	12		44	棚卸資産の単価計算	52	52	空欄補充			
13	数的	47	場合の数	13		33	財務諸表	53	19	空欄補充			
14	判 断	78	位置・座席	14	憲 法	16	キャッシュ・フロー計算書	54	商 業 英 語	78	用語の意味		
15		27	対応	15		50	連結財務諸表	55		56	空欄補充		
16		34	順序	16		12	仕訳問題	56		32	空欄補充		
17	44	操作手順	17	41	法の下の平等	57	51	空欄補充					
18	空 間	83	平面図形	18	74	表現の自由	58	52		内容合致			
19	数 的	56	軌跡	19	行 政 法	38	内閣	59	情 報 数 学	83	16進数小数の10進数変換		
20		54	期待値	20		89	行政立法	60		50	論理演算		
21		44	割合	21		83	原告適格	61		17	ベクトル空間の定義を満たす集合		
22		50	剰余	22		85	損失補償	62		33	複素数の計算(ド・モアブルの定理)		
23	判 断	60	規則性	23	経 済 学	90	効用最大化(計算)	63	情 報 工 学	83	分数式の値		
24		39	方程式	24		95	操業停止点(計算)	64		50	無限級数の計算		
25	資 料	72	複数の資料	25		経 事	37	自然失業率仮説		65	情 報	50	TCP/IPモデルにおけるプロトコル
26		56	対前月増加量	26			19	新古典派投資理論		66		100	キャッシュメモリのヒット率
27		63	様々な資料	27	75		日本経済事情	67	100	稼働率			
28	時 事	87	我が国の医療と健康	28	60		世界経済事情	68	75	フローチャート			
29		70	近年の世界の動向	29	83	負の所得税	69	25	アルゴリズムにけるオーダ記法				
30		59	近年我が国における法改正	30	86	年金財政方式	70	100	情報セキュリティ要素における完全性				
31	自 然	29	波動	31	財 政 学	85	我が国の財政制度	平均点 ～データリサーチより～ 基礎能力試験 23.9 専門択一試験 24.5					
32		60	天然高分子化合物	32		61	我が国の租税制度						
33		67	細胞の構造	33		57	我が国の財政状況						
34	46	我が国の文化	34	72		我が国の地方財政							
35	人 文	64	18～19世紀フランス	35	経 営 学	74	経営戦略						
36		59	ヨーロッパの思想	36		51	企業の結合等(企業集中)						
37		80	世界の農業	37		77	経営管理						
38	社 会	52	自由権総合	38		86	動機づけ理論						
39		79	我が国の司法制度	39		85	我が国の会社形態						
40		38	冷戦終結後の国際社会	40	86	日本の経営							

※ 正答率(%)は小数点第 1 位を四捨五入しています。

※ 正答率 60%以上は網掛けで示しています。

2021 年

基礎能力試験

専門試験

専門試験

No	正答率(%)		出題テーマ	No.	正答率(%)		出題テーマ	No.	正答率(%)		出題テーマ
1	現文	93	内容合致	1	民法	77	意思表示	41	政治学	90	エリート理論等
2		76	内容合致	2		74	物権	42		57	エスピノ＝アンデルセンの福祉国家
3		82	内容合致	3		64	留置権	43		58	マスメディアの影響力
4		90	内容合致	4		78	詐害行為取消権	44	39	社会調査	
5		71	空欄補充	5		66	賃貸借	45	79	フーコーの権力論	
6		82	文章整序	6		55	相続	46	事情	84	我が国の労働環境
7	英文	70	内容合致	7	商法	31	株主の権利	47	英語	71	内容合致
8		39	内容合致	8		75	役員等の会社に対する責任	48		83	内容合致
9		66	内容合致	9	会計学	43	会計の基礎	49		67	内容合致
10		72	文章整序	10		35	会社の設立と純資産会計	50		49	文章整序
11		29	空欄補充	11		34	リース取引	51		17	空欄補充
12		50	集合	12		44	引当金	52		30	空欄補充
13	50	円卓	13	46		有価証券	53	51	空欄補充		
14	78	時間割	14	14		企業財務分析	54	59	用語の意味		
15	88	順序	15	21		固定費と変動費の分解	55	64	空欄補充		
16	70	対応	16	27		仕訳問題	56	45	空欄補充		
17	81	トーナメント	17	憲法	90	幸福追求権	57	38	空欄補充		
18	空間	56	平面ジグソー		18	48	社会権	58	47	空欄補充	
19		29	正多面体		19	91	国会	59	70	10進法の除算結果の2進法への変換	
20	数的	51	確率	20	行政法	41	行政指導	60	98	集合記号とベン図	
21		70	濃度	21		84	訴えの利益	61	38	回転行列と対角行列の積のn乗	
22		61	整数	22		88	国家賠償法	62	60	演算と群の定義	
23		61	図形の計量	23	経済学	81	効用最大化(計算)	63	98	n乗数と規則性	
24		62	平均	24		22	2要素生産関数(計算)	64	32	三角関数のn階微分の特殊値	
25	資料	86	実数と割合(グラフ)	25		53	総供給関数(計算)	65	40	DNS	
26		74	実数(表)	26	85	成長会計方程式(計算)	66	50	主記憶の実効アクセス時間		
27		76	複数の表・グラフ	27	経事	71	日本経済事情	67	60	システムの稼働率	
28	時事	73	我が国の生物をめぐる動向	28	財政学	59	世界経済事情	68	20	デジタル署名	
29		85	2020年のCOVID-19の動向	29		81	従価税の余剰分析(計算)	69	60	フローチャート	
30		62	近年の経済・金融等	30		35	公共財(文章)	70	30	二要素認証	
31	自然	63	消費電力	31		84	我が国の財政制度	平均点 ～データリサーチより～ 基礎能力試験 27.1 専門択一試験 24.0			
32		64	酸化還元	32		75	国債				
33		74	免疫	33		90	我が国の財政状況				
34	人文	88	我が国と中国王朝の関係	34		77	財政史				
35		51	中世ヨーロッパ	35	経営学	65	経営戦略				
36		46	世界の気候と森林	36		76	動機づけ理論等				
37		56	我が国の仏教思想家	37		63	リーダーシップ論				
38	93	内閣	38	55		製品開発及び生産管理					
39	86	IS-LM 分析	39	49		株式会社					
40	68	国際連合	40	50		企業活動					

※ 正答率(%)は小数点第1位を四捨五入しています。

※ 正答率 60%以上は網掛けで示しています。

2020 年

基礎能力試験

専門試験

専門試験

No	正答率(%)		出題テーマ	No.	正答率(%)		出題テーマ	No.	正答率(%)		出題テーマ
1	現文	88	内容合致	1	民法	86	時効	41	政治学	56	政治思想
2		76	内容合致	2		66	即時取得	42		74	議会と政党
3		93	内容合致	3		31	先取特権	43		14	国際政治
4		84	内容合致	4		65	債権譲渡	44	社会学	28	現代社会の理論
5		48	文章整序	5		80	請負	45		79	クーリーの「鏡に映った自我」
6		71	空欄補充	6		27	婚姻	46	事情	80	我が国の労働をめぐる動向
7	英文	65	内容合致	7	商法	29	株式	47	英語	53	内容合致
8		73	内容合致	8		44	株主代表訴訟等	48		65	内容合致
9		68	内容合致	9	会计学	47	我が国の企業会計原則	49		75	内容合致
10		68	文章整序	10		51	資産の分類や評価等	50		67	文章整序
11		40	空欄補充	11		56	資産会計	51		77	空欄補充
12		66	命題	12		54	有形固定資産の減価償却と固定資産の減損	52		61	空欄補充
13	63	位置関係	13	31		税効果会計や損益会計	53	65	語句の言い換え		
14	86	順序(順位変動)	14	48		財務諸表	54	91	用語の説明		
15	判断	70	順序(任期)	15	46	連結財務諸表	55	68	空欄補充		
16		51	対応	16	30	仕訳	56	73	空欄補充		
17		58	位置関係	17	憲法	69	人権の享有主体性	57	88	文章整序	
18	48	軌跡	18	98		思想及び良心の自由	58	51	文章整序		
19	46	多面体	19	67		内閣	59	情報数学	25	16→4 進法への変換と桁数の最大値	
20	数的	73	方程式	20	行政法	65	行政手続法上の申請に対する処分		60	65	集合(ド・モルガンの法則)
21		43	図形の計量	21		69	行政事件訴訟法上の執行停止		61	45	平面ベクトル(長さの最大値)
22		46	割合	22		93	国家賠償	62	70	三角(関数)方程式の解の個数	
23		67	確率	23	経済学	74	消費者理論総合問題(組合せ)	63	45	連鎖行列積問題	
24		41	規則性	24		64	二重価格制度(図解)	64	70	群数列	
25		資料	61	複数のグラフ		25	81	デフレ・ギャップ(計算)	65	情報	0
26	57		複数の表	26	87	貨幣乗数(計算)	66	60	音声符号化		
27	62		複数のグラフ・表	27	経事	69	我が国の財政・金融動向	67	60		共通鍵暗号方式
28	時事	37	我が国の交通等	28		44	各国の経済成長率(組合せ)	68	60	フローチャート	
29		68	文化財	29		財政学	61	財政理論(組合せ)	69	20	ブロードキャストアドレス
30		62	最近の国際情勢	30	62		課税理論	70	60	リスクベース認証	
31	自然	14	速度の分解	31	経営学		76	我が国の税制(組合せ)	平均点 ～データリサーチより～ 基礎能力試験 24.8 専門択一試験 24.7		
32		57	状態変化	32		76	財政投融资				
33		67	植物の環境応答	33		68	我が国の財政状況				
34	人文	57	我が国における一揆	34		84	一般会計予算の推移				
35		73	第二次世界大戦後の冷戦	35		経営学	71	意思決定論			
36		77	ケッペンの気候区分	36			87	経営組織論			
37	63	わが国の思想家	37	88	経営戦略論						
38	社会	62	法の支配や人権	38	70		マーケティング論				
39		67	物価関連	39	73		我が国の企業経営				
40		79	情報化社会	40	78		国際経営				

※ 正答率(%)は小数点第1位を四捨五入しています。

※ 正答率 60%以上は網掛けで示しています。

5. 情報収集

国税専門官の情報収集

■ 人事院ホームページ（国家公務員採用情報 NAVI）

<https://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.html>

■ 国税庁ホームページ

<https://www.nta.go.jp>

➡ 試験情報から各種イベントまで様々な情報を収集することができます。ホームページを定期的にチェックしておきましょう。

■ T A C 公務員講座主催 官公庁・自治体講演会

https://www.tac-school.co.jp/kouza_komuin/komuin_setumeikai.html

➡ 採用試験制度の仕組み、職員の業務内容、若手職員に期待すること、入庁後のキャリアプランなど、採用試験のご担当者から直接ご説明いただきます（普段着で出席できます）。例年、秋以降から実施していきます、詳細は TAC WEB SCHOOL で案内が出ますのでご確認ください。

■ 復元シート（各校舎・TAC WEB SCHOOL で資料閲覧）

➡ 過年度の筆記試験や人物試験の復元シートなどが閲覧できます。校舎で閲覧する場合は受付で会員証を提示の上で申し出てください。TAC WEB SCHOOL で閲覧する場合は「学習フォロー」の中の「デジタル教材」をクリックして確認してください。

■ 試験種別対策：国税専門官（有料）

➡ 国税専門官試験で特有の科目である、商法や簿記入門、会計学などの講義や会計学記述の対策講義が含まれています。

■ 直前期オプション講座：会計学コンパクト（有料）

➡ 会計学の対策について頻出テーマに絞った集中講義（全4回）。会計学（択一）であと3点を狙うピンポイントの出題予想講義です。

6. 参考資料（面接カード）

面接カード（専門職大卒） 2022

事前に記入して人物試験当日に持参してください。

・ボールペン（自筆）で記入してコピーを2部取り，原本と併せて3部を人物試験当日に持参してください。（様式を変更しないでください。該当する□には✓を付けてください。）

・出身校や会社名などが特定されるような記入は避けてください。

※このカードは，人物試験の際に質問の参考資料として使用するものであり，記入内容が直接評価に影響することはありません。

試験の区分	第1次試験地	受験番号	ふりがな 氏 名
[最終学歴] ☐ 大学 ☐ 大学院 (課程) ☐ その他 ()			[職 歴] ☐ ある ☐ ない (主な職種)
☐ 修了・卒業 (年 月) ☐ 在学 (年 月 修・卒見) ☐ 中退 (年 月)			

[志望動機・受験動機]

[専攻分野・得意分野] 学業や職務経験を通じたもの（あれば，専攻演習，卒業・修士論文のテーマ等）

[最近関心や興味を持った事柄] 社会生活，時事問題，社会情勢など

[印象深かったこれまでの体験] 学校生活や職務，ボランティア活動，アルバイトなどの体験を通じて

[自己PR] 長所や人柄について

[趣味，特技など]

財務専門官

1. 試験の流れ

申し込みから採用までの日程

	流れ	日程	備考
①	申込み期間	3/18（金）～4/4（月）	2/1 に公告（受験案内配布）インターネット申込
②	1 次試験日	6/5（日）	国税専門官・労働基準監督官と同日程
③	1 次合格発表	6/28（火）	人事院HP上でも合格番号を掲載
-	業務説明会等	6/29 以降（要予約）	財務局により実施の有無及び実施方法・時期が異なる
④	2 次試験日	7/4（月）～7/7（木）	1 次合格通知書で指定された日に面接
-	職場訪問	2 次試験日以降（要予約）	財務局により実施日・方法・回数が異なる
⑤	最終合格発表	8/16（火）	人事院HP上でも合格番号を掲載
⑥	採用	4/1	原則として 4 月以降の採用

※受験資格：平成 4 年 4 月 2 日～平成 13 年 4 月 1 日生まれの人（21 歳以上 30 歳未満）

➡財務専門官試験は、上記の流れで試験が行われますが、国家一般職のように地域区分ごとの合否が出るものではなく、全国一律で実施されます。第 1 次試験及び第 2 次試験はそれぞれ受験に便利な 1 都市を選んで受験することができます。最終合格後は、各財務局で行われる採用面接を通して採用されます。なお、2 次試験日から最終合格発表日までの間に、各財務局が実施する「職場訪問」が事実上の採用面接にあたります。

職場訪問について

➡各財務局（支局）では、1 次合格者に対して 2 次試験日以降に職場訪問（事前予約制）を実施しています。これは、職員との会話を通して職場の雰囲気などを確認できる機会だと説明されています。表記上は説明会や見学会のような印象を受けますが、実際には国家一般職の官庁訪問と同様に、**内定（内々定）を勝ち取るための重要な自己 PR の機会**と考える必要があります。

実態としては 2 次試験日に提出する志望カードが使用され、面接などが行われています。職場訪問の面接は、受験者に対する質問だけでなく、受験者側から担当者に対して業務などに関する質問の機会を豊富に設けている点が大きな特徴です。いわゆる「逆質問」と呼ばれるもので、国家一般職の官庁訪問とその点でも類似しているといえます。財務局により実施方法（オンライン/対面）や訪問回数（2～5 回）が異なりますが、詳細は 1 次試験合格発表後に各財務局の HP 等で告知されますので必ず確認するようにしましょう。この職場訪問を経て 8 月の中旬ごろ（最終合格発表前）に内々定を告げられる受験生もできます。

なお、職場訪問では結果が出ずに、最終合格後の採用面接（予約制）で内々定を勝ち取ったケースも過去

にはあります。職場訪問で出される内定（内々定）は非公式なもので、最終合格後の採用面接で正式に決まることになります。

財務専門官試験における「職場訪問」の位置づけは、内定を獲得するための重要なプロセスだといえます。

2. 試験形式

1 次試験

試験科目	解答題数	解答時間	備考
基礎能力試験（多肢選択式）	40 題	2 時間 20 分	全問必須解答
専門試験（多肢選択式）	40 題	2 時間 20 分	必須：2 科目（28 題） 選択：8 科目中 2 科目（12 題）
専門試験（記述式）	1 題	1 時間 20 分	5 科目中 1 科目選択（2 次試験扱い）

基礎能力試験	
現代文	6
英文	5
判断推理	6
空間把握	2
数的推理	5
資料解釈	3
小計	27
時事	3
物理	1
化学	1
生物	1
日本史	1
世界史	1
思想	1
地理	1
法学	3
経済	
政治	
小計（解答／出題）	13
出題数	40
解答数	40
解答時間	140

専門試験（択一）		
憲法（6）	(14)	28
行政法（8）		
経済学（6）	(14)	
財政学（6）		
経済事情（2）		
小計（2科目必須）		28
民法（5）		6
商法（1）		
統計学		6
政治学（3）		6
社会学（3）		
会计学		6
経営学		6
英語		6
情報数学		6
情報工学		6
小計（2科目選択/出題）		12/48
出題数		76
解答数		40
解答時間		140

➡基礎能力試験は一般知能分野の出題が 27 問と出題数の 67.5%を占めています。受験案内では数的処理の出題内訳が数的推理 5 問、判断推理 8 問、資料解釈 3 問となっていますが、実際には判断推理の 2 問程度が空間把握となっています。

➡専門択一試験は 2 科目必須、2 科目選択の計 4 科目解答制となっています。しかし、憲法・行政法や、経済学・財政学・経済事情のように複数の科目で 1 科目に相当するため、実質的には 7～9 科目を学習する必要があります。

専門試験（記述式）

➡5 科目（憲法・民法・経済学・財政学・会计学）各 1 題のうち、1 科目を当日選択して解答します。試験は 1 次で実施されますが、採点は 2 次試験で行います。

2 次試験**個別面接形式（3：1）**

➡面接官は 3 人で構成されています。当日に持参する面接カードに沿って、15（±5）分程度の面接が行われます。2 次試験日には、別途「志望カード」を提出する必要がありますが、2 次面接では使用されず、職場訪問や採用面接で使用されます。また、2 次試験の際、人物試験の参考とするために質問紙法による性格検査（100 項目の質問に対して「はい」又は「いいえ」により回答：15 分）が行われますが、性格検査については特に対策の必要はありません。

配点比率・基準点

財務専門官	試験種目	配点比率	基準点	
第 1 次試験	基礎能力試験	2/9	12	（40 問中 12 問以上の正答が必要）
	専門試験（択一）	3/9	12	（40 問中 12 問以上の正答が必要）
	専門試験（記述）	2/9	30	（100 点満点中 30 点以上の評価が必要）
第 2 次試験	個別面接	2/9	C	（A～E の 5 段階中 C 以上の評価が必要）

➡1 次試験の可否は「基礎能力試験＋専門試験（択一）」で決定されます。配点比率から考えると、この試験では専門試験（択一）の得点がより重要な意味を持つ試験種目といえます。また、全体に占める択一試験の比率が高いことも大きな特徴だといえます。ただし、それぞれにおいて、最低限必要な得点（基準点）が設定されていることに注意が必要です。択一試験では基準点（満点の 30%）に達しない試験種目が一つでも存在する場合、他の試験種目の成績に関わらず不合格となってしまいます。

また、専門試験（記述）は 1 次試験で実施されますが、2 次試験扱いになっています。1 次合格者を対象に評定し、得点化されます。ここでも、基準点（100 点満点中 30 点）に達しない場合は不合格になるので注意が必要です。

➡2 次試験で行われる個別面接では、受験者を A～E の 5 段階で評価しますが、D 及び E 評価になった者は、基準点を満たさない者として不合格になります。A～C 評価である者に対してのみ得点化します。

➡最終合格者については、1 次試験と 2 次試験の得点（標準点）を合計して決定されます。

採点方法（択一・記述・面接）

$$\text{標準点} = 10 \times \text{配点比率} \times \left(15 \times \frac{\text{素点} - \text{平均点}}{\text{標準偏差}} + 50 \right)$$

➡受験者の筆記試験の得点は、各試験種目の素点※ではなく、試験種目ごとに平均点、標準偏差を用いて上記の方法で算出した「標準点」を使っています。上記のカッコ内の式は、いわゆる偏差値になりますので、標準点とは、【10×配点比率×偏差値】ということになります。なお、標準点は小数点以下を切り捨てて表記されます。標準点の合計は概ね 0～1000 点の範囲になり、全ての試験種目で平均的な成績であれば、標準点の合計はおよそ 500 点になります。

素点※：択一式試験の場合は正解数、記述式試験の場合は複数の評価者による評点を総合した値

例) 基礎能力試験で平均点が 20 点、標準偏差が 5.5 点である場合、40 問中 25 問の正答数だと以下のように標準点を算出します。

$$10 \times \frac{2}{9} \times \left(15 \times \frac{25-20}{5.5} + 50 \right) = 141.414141 \dots$$

標準点 = 141

➡ 人物試験においては、各受験者について A～E の 5 段階で評価し、この評価結果が正規分布するものとみなして、各段階の標準点を算出しています。

3. 受験状況

倍率（過去 3 年）

財務専門官		採用予定	1 次試験		1 次合格者数	最終合格者数	受験倍率※		
			申込者数	受験者数			1 次試験	2 次試験	総合
年度	2022	180	2,501	1,382	1,077	632	1.3	1.7	2.2
	2021	170	2,503	1,449	966	597	1.5	1.6	2.4
	2020	160	2,796	1,338	911	590	1.5	1.5	2.3

※受験倍率（1 次試験）＝（1 次試験受験者数）÷（1 次合格者数）

※受験倍率（2 次試験）＝（1 次合格者数）÷（最終合格者数）

※受験倍率（総合）＝（1 次試験受験者数）÷（最終合格者数）

➡ 財務専門官試験の採用数は安定してはいますが決して多いわけではありません。申込者数は採用予定数の 14 倍程度と比較的人気がある試験といえます。しかし、実際は申込者の 40～50%程度が欠席する傾向があることや、最終合格者数が採用予定数の 3.5 倍前後となることから、実質倍率が 2 倍前後と比較的低い水準で保たれており、受験しやすい状況が続いています。最終合格者数が採用予定数の 3.5 倍前後になっているのは、辞退者が多いためだと考えられます。

採用実績

財務専門官	名簿確定日	名簿記載者数	採用者数※	辞退・無応答者数	採用候補者
2020 年	R2.9.25	560	149	396	15
2019 年	R1.8.20	526	144	372	10
2018 年	H30.8.21	526	137	380	9

※名簿搭載期間は 1 年間であるため、採用者数は過年度名簿からの採用者は含みません

➡ 上表は、人事院が発表している「公務員白書」より、財務専門官試験の名簿記載者数及び採用者数を表したものです。表内の「採用候補者」欄はいわゆる名簿残存者（内定先が決まっていない者）になります。財務専門官試験では他の国家専門職とは違い、採用候補者名簿の有効期限が 1 年であるため、白書では「採用候補者」と表記されていますが実質的には採用漏れになった人数だといえます。その数は毎年 10 人前後で、名簿記載者数の 2～3%前後となっています。

財務専門官	①採用者数	②採用予定	採用率 (①÷②) ×100
2020 年	149	180	82.7%
2019 年	144	170	84.7%
2018 年	137	160	85.6%
2017 年	169	150	112.7%
2016 年	139	150	92.7%
2015 年	156	150	104.0%
2014 年	146	140	104.3%
2013 年	140	140	100.0%
2012 年	57	62	91.9%

➡上表の採用率は、採用予定に対する採用者数の割合を示したものです。その数値が 100%を下回ると、「定員割れ」していることを示します。2018 年以降では定員割れの状況が続いています。2017 年以前では定員割れしても 90%台であり、100%を越える年も多くありましたが、近年では 80%台で推移しています。

4. 試験分析

平均点

平均点・標準偏差	2022 年	2021 年	2020 年
基礎能力試験	22.988	26.715	24.783
(標準偏差)	5.195	5.440	5.554
専門択一	23.549	24.825	25.664
(標準偏差)	6.915	7.313	7.268
専門記述	51.662	53.012	53.315
(標準偏差)	14.936	17.839	17.372

➡上表は人事院が公表している平均点・標準偏差について直近 3 年分をまとめたものです。確認すると、基礎能力試験は 2022 年の平均点が前年より 4 点近く下がっていますので、難易度は上がったといえます。ちなみに、基礎能力試験は他の国家専門職試験（国税・労基）と共通問題ですが、財務専門官試験の平均点が最も高く、国税専門官試験と比較すると例年 2～3 点の開きがありましたが、2022 年ではその差が 1 点程度に縮小しています。専門択一試験と専門記述試験はいずれも平均点に大きな変動はないものの、前年より下がる傾向にあるといえます。また、択一試験の標準偏差を比較すると、専門試験の方が常に基礎能力試験より大きいことがわかります。標準偏差とは平均値に対する「ばらつきの度合」を示すものです。その数値が大きければ大きいほど、できる人とできない人との点差が開きやすいことになります。そのため、基礎能力試験よりも専門（択一）試験の方が、より点差が開きやすい試験だといえます。

データリサーチ

➡TAC では問題の持ち帰りが可能な主要試験種においてデータリサーチを行っています。本試験を受験した方から寄せられた情報をもとに各試験のボーダーライン予想などを提供しています。他にも参加特典がありますので、積極的に利用してください。

特に TAC で実施している財務専門官のデータリサーチは、他の予備校と比較しても最大の規模で、実際の受験者数の 20%以上が参加しています。ただ、受験して手ごたえを感じた方の参加率が比較的高いこともあるため、実際の本試験よりも平均点が若干高くなる傾向があります。

基礎能力試験・分野別平均点 ～データリサーチより～

基礎能力試験	2022 年	2021 年	2020 年	出題数	例年の正答率
文章理解	7.9	8.1	8.1	11	70%前後の正答率
数的処理	9.0	11.2	10.1	16	55～65%の正答率
自然科学	1.6	2.1	1.5	3	50～70%の正答率
人文科学	2.5	2.7	2.7	4	60～70%の正答率
社会科学	1.7	2.6	2.2	3	60～70%の正答率
時事	2.1	2.2	1.7	3	60～70%の正答率
合 計	24.8	28.9	26.3	40	60～70%の正答率

➡各分野の実際の平均点はデータリサーチよりも低くなりますので、上記の数値を超えていなくても十分に合格することは可能ですが、学習を進めていく上では一つの目安にすることができるとでしょう。ご自身の得意不得意などを加味した上で、分野別に自分なりの目標値を設けて学習を進めていきましょう。

専門試験・科目別選択率 ～データリサーチより～

専門試験・科目別選択率	2022 年	順位	2021 年	順位	2020 年	順位
憲法・行政法	100%	-	100%	-	100%	-
経済学・財政学・経済事情	100%	-	100%	-	100%	-
民法・商法	74%	①	74%	①	73%	①
統計学	5%	⑤	6%	⑤	6%	⑤
政治学・社会学	60%	②	69%	②	51%	②
会计学	4%	⑥	3%	⑦	5%	⑥
経営学	45%	③	31%	③	49%	③
英語	9%	④	9%	④	15%	④
情報数学	1%	⑦	5%	⑥	2%	⑦
情報工学	1%	⑦	1%	⑧	1%	⑧

➡上表はデータリサーチにおける専門試験科目の選択率を示しています。

必須解答である憲法・行政法と経済学・財政学・経済事情以外で、選択率が 50%を超える科目は網掛けになっています。年度による順位の変動はあるものの、上位 3 科目に変動はありません。2 科目選択であるため、実質的には民法・商法、政治学・社会学、経営学の 3 科目が使われているといえます。それ以外の科目については、選択している方はいるものの、選択率は低い状況です。

専門試験・科目別平均点 ～データリサーチより～

専門試験	2022 年	2021 年	2020 年	出題数
憲法・行政法	9.0	10.4	11.4	14
経済学・財政学・経済事情	9.1	9.9	9.5	14
民法・商法	4.5	4.6	3.9	6
統計学	2.9	3.3	4.0	6
政治学・社会学	4.4	4.4	3.8	6
会计学	4.4	4.3	4.4	6
経営学	4.6	4.2	5.0	6
英語	2.8	3.7	4.4	6
情報数学	5.0	4.1	3.2	6
情報工学	4.0	5.0	4.0	6
合 計	26.8	29.0	28.9	76

➡上表の網掛け部分は平均点が出題数の 6 割以上である科目を示しています。ほとんどの科目で安定して高い平均点であるため、多くの受験者は、自分の得意な科目を有効に活用しているといえます。一部

の科目を除けば、難易度の変動は小さい試験だとみることができます。そのため、科目の選択率が低い科目であっても、自分の得意な科目であれば、得点を見込むことができる試験だといえるでしょう。また、出題数が 14 題と多い必須解答科目でも、例年 65～70% 程度の得点率で推移しており、平均点が安定して高いことがわかります。これらの必須科目についてしっかりと対策を進め、得点源にすることができれば効果的だといえます。多くの公務員試験でも出題される重要科目であるため、他の試験にも良い影響を与えることにもつながるはずです。

ボーダーライン

(合格点：標準点)

財務	1 次合格	最終合格	標準点差
2022	223	466	243
2021	250	470	220
2020	248	422	174

➡上表は人事院が公表した 1 次合格および最終合格のために最低限必要な標準点を表しています。特に 2020 年はコロナ禍による試験日程の大幅な変更があったため、例年よりも最終合格点が低くなり、1 次合格と最終合格の標準点差も例年より縮まり（174 点）しました。これは、専門記述および面接試験で基準点の合計が 164 点であるため、1 次の得点がギリギリでも最終合格がしやすいことを意味します。2021 年以降は、標準点差が 220～240 点で推移しているため、択一試験の得点がギリギリである場合、面接と専門記述の得点の組み合わせによっては最終合格を逃してしまうことになります。

(専門記述・面接：標準点)

面接	A	B	C	D	E
2022	177	140	99	不 合 格	
2021	177	140	100		
2020	181	141	98		

記述	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	100
2022	62	73	85	96	107	118	129	140	152	163	174	185	196	207	218
2021	68	77	86	96	105	114	124	133	142	152	161	170	180	189	198
2020	66	75	85	95	104	114	123	133	143	152	162	171	181	191	200

➡上表は、人事院が公表した面接の評価別標準点と、データをもとに算出した専門記述の標準点です。1 次で獲得した択一試験の標準点に、上記の専門記述と面接で獲得した標準点を加えた総合得点が、最終合格に必要な標準点を上回る必要があります。2021 年で確認すると、1 次試験が合格最低点（250 点）であった場合、面接と記述で 220 点以上必要となりますので、面接が A 評価だと、記述は基準点さえ超えていればよく、面接が C の場合だと、記述の評価は平均点より少し高い 60 点以上の得点が必要だということになります。

【補足】専門記述試験の採点方法

➡財務専門官の記述試験採点方法については、現時点では資料がないためはっきりとしたことはいえませんが、他の国家専門職試験とは面接試験などの実施基準も共通しているため、専門記述についても同様に共通していると考えられます。以下は国税専門官試験の採点基準ですが、おそらく財務専門官でも同様の方法を採用していると推察されますので参考にしてください。

(参考)

➡専門記述の答えは 2 名の採点者によってそれぞれ独立に評価されます。採点は 10 点満点で行われ、2 人の採点結果の合計をさらに 5 倍した値を素点としています。そのため専門記述の素点は 5 の倍数となります。この素点はさらに、平均点や標準偏差、配点比率をもとに標準点化されます。

TAC 公務員講座

➡下表は 2022 年の財務専門官試験において、合格に必要な得点についてまとめています。専門試験の得点を縦軸に、基礎能力試験の得点を横軸にとり、その合流点が択一試験の合計得点（標準点）となります。表内の網掛け（灰色）になっている部分が 1 次試験に合格できる範囲となります。また、昨年との比較についてもまとめているので参考にしてください。

2022 財務専門官																																									
40	285	325	332	338	344	351	357	364	370	376	383	389	396	402	409	415	421	428	434	441	447	453	460	466	473	479	486	492	498	505											
39	278	318	325	331	337	344	350	357	363	369	376	382	389	395	402	408	414	421	427	434	440	446	453	459	466	472	479	485	491	498											
38	271	311	318	324	330	337	343	350	356	362	369	375	382	388	395	401	407	414	420	427	433	439	446	452	459	465	472	478	484	491											
37	263	303	310	316	322	329	335	342	348	354	361	367	374	380	387	393	399	406	412	419	425	431	438	444	451	457	464	470	476	483											
36	256	296	303	309	315	322	328	335	341	347	354	360	367	373	380	386	392	399	405	412	418	424	431	437	444	450	457	463	469	476											
35	249	289	296	302	308	315	321	328	334	340	347	353	360	366	373	379	385	392	398	405	411	417	424	430	437	443	450	456	462	469											
34	242	282	289	295	301	308	314	321	327	333	340	346	353	359	366	372	378	385	391	398	404	410	417	423	430	436	443	449	455	462											
33	235	275	282	288	294	301	307	314	320	326	333	339	346	352	359	365	371	378	384	391	397	403	410	416	423	429	436	442	448	455											
32	227	267	274	280	286	293	299	306	312	318	325	331	338	344	351	357	363	370	376	383	389	395	402	408	415	421	428	434	440	447											
31	220	260	267	273	279	286	292	299	305	311	318	324	331	337	344	350	356	363	369	376	382	388	395	401	408	414	421	427	433	440											
30	213	253	260	266	272	279	285	292	298	304	311	317	324	330	337	343	349	356	362	369	375	381	388	394	401	407	414	420	426	433											
29	206	246	253	259	265	272	278	285	291	297	304	310	317	323	330	336	342	349	355	362	368	374	381	387	394	400	407	413	419	426											
28	198	238	245	251	257	264	270	277	283	289	296	302	309	315	322	328	334	341	347	354	360	366	373	379	386	392	399	405	411	418											
27	191	231	238	244	250	257	263	270	276	282	289	295	302	308	315	321	327	334	340	347	353	359	366	372	379	385	392	398	404	411											
26	184	224	231	237	243	250	256	263	269	275	282	288	295	301	308	314	320	327	333	340	346	352	359	365	372	378	385	391	397	404											
25	177	217	224	230	236	243	249	256	262	268	275	281	288	294	301	307	313	320	326	333	339	345	352	358	365	371	378	384	390	397											
24	169	209	216	222	228	235	241	248	254	260	267	273	280	286	293	299	305	312	318	325	331	337	344	350	357	363	370	376	382	389											
23	162	202	209	215	221	228	234	241	247	253	260	266	273	279	286	292	298	305	311	318	324	330	337	343	350	356	363	369	375	382											
22	155	195	202	208	214	221	227	234	240	246	253	259	266	272	279	285	291	298	304	311	317	323	330	336	343	349	356	362	368	375											
21	148	188	195	201	207	214	220	227	233	239	246	252	259	265	272	278	284	291	297	304	310	316	323	329	336	342	349	355	361	368											
20	141	181	188	194	200	207	213	220	226	232	239	245	252	258	265	271	277	284	290	297	303	309	316	322	329	335	342	348	354	361											
19	133	173	180	186	192	199	205	212	218	224	231	237	244	250	257	263	269	276	282	289	295	301	308	314	321	327	334	340	346	353											
18	126	166	173	179	185	192	198	205	211	217	224	230	237	243	250	256	262	269	275	282	288	294	301	307	314	320	327	333	339	346											
17	119	159	166	172	178	185	191	198	204	210	217	223	230	236	243	249	255	262	268	275	281	287	294	300	307	313	320	326	332	339											
16	112	152	159	165	171	178	184	191	197	203	210	216	223	229	236	242	248	255	261	268	274	280	287	293	300	306	313	319	325	332											
15	104	144	151	157	163	170	176	183	189	195	202	208	215	221	228	234	240	247	253	260	266	272	279	285	292	298	305	311	317	324											
14	97	137	144	150	156	163	169	176	182	188	195	201	208	214	221	227	233	240	246	253	259	265	272	278	285	291	298	304	310	317											
13	90	130	137	143	149	156	162	169	175	181	188	194	201	207	214	220	226	233	239	246	252	258	265	271	278	284	291	297	303	310											
12	83	123	130	136	142	149	155	162	168	174	181	187	194	200	207	213	219	226	232	239	245	251	258	264	271	277	284	290	296	303											
専門	標準点	40	47	53	59	66	72	79	85	91	98	104	111	117	124	130	136	143	149	156	162	168	175	181	188	194	201	207	213	220											
素点	基礎	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40											

1次試験合格点（標準点）	223	1次合格最低点（素点）	38	面接	A	B	C	D	E
最終合格点（標準点）	466	1次不合格最高点（素点）	39	標準点	177	140	99		

専記	素点	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	100
	標準点	62	73	85	96	107	118	129	140	152	163	174	185	196	207	218

2021年に比べ1次合格点（標準点）が27点、最終合格点（標準点）が4点下がっている。素点ベースで確認すると、2021年は基礎12+専門35＝47点（58.75％）が1次合格の最低点であったが、2022年では基礎12+専門26＝38点（47.5％）となっている。そのため、1次試験のボーダーラインは9点程度下がったといえる。また、最終合格点と1次合格点との差（243点）が大きいため、1次がボーダー付近の場合、専門記述の素点が平均付近（50点）であれば面接でB評価が必要で、面接の評価がCで専門記述の素点が70点未満であれば最終合格はできなかったことになる。

出題傾向・正答率

2022 年

基礎能力試験

専門試験

専門試験

No	正答率(%)	出題テーマ	No.	正答率(%)	出題テーマ	No.	正答率(%)	出題テーマ
1	73	内容合致	1	48	法の下の平等	41	政治学	78 国際政治や政治理論等
2	89	内容合致	2	5	信教の自由	42	政治学	51 利益団体と政策形成
3	93	内容合致	3	77	表現の自由	43	社会学	89 各国の政治制度
4	89	内容合致	4	81	国会	44	社会学	87 シカゴ学派
5	82	空欄補充	5	46	内閣	45	社会学	64 リーダーシップ研究
6	84	文章整序	6	55	司法権	46	社会学	85 逸脱理論
7	61	内容合致	7	90	行政立法	47	会计学	60 一般原則
8	41	内容合致	8	83	行政契約	48	会计学	90 資本会計
9	78	内容合致	9	55	行政上の義務履行確保	49	会计学	90 棚卸資産の単価計算
10	46	文章整序	10	81	行政不服審査法	50	会计学	70 財務諸表
11	61	空欄補充	11	67	行政事件訴訟	51	会计学	60 キャッシュ・フロー計算書
12	41	集合	12	83	原告適格	52	会计学	80 連結財務諸表
13	47	場合の数	13	83	損失補償	53	経営学	76 経営戦略
14	78	位置・座席	14	79	国有財産法	54	経営学	58 企業の結合等(企業集中)
15	27	対応	15	92	効用最大化(計算)	55	経営学	75 経営管理
16	34	順序	16	94	操業停止点(計算)	56	経営学	88 動機づけ理論
17	44	操作手順	17	77	独占均衡とラーナーの独占度(計算)	57	経営学	86 我が国の会社形態
18	83	平面図形	18	24	マネーストック統計	58	経営学	90 日本的経営
19	56	軌跡	19	42	自然失業率仮説	59	英語	26 内容合致
20	54	期待値	20	19	新古典派投資理論(計算)	60	英語	53 内容合致
21	44	割合	21	86	負の所得税(計算)	61	英語	63 内容合致
22	50	剰余	22	88	年金財政方式	62	英語	53 文章整序
23	60	規則性	23	81	我が国の財政制度	63	英語	32 空欄補充
24	39	方程式	24	63	我が国の租税制度	64	英語	58 空欄補充
25	72	複数の資料	25	54	我が国の財政状況	65	情報学	100 16進数小数の10進数変換
26	56	対前月増加量	26	77	我が国の地方財政	66	情報学	100 論理演算
27	63	様々な資料	27	75	日本経済事情	67	情報学	0 ベクトル空間の定義を満たす集合
28	87	我が国の医療と健康	28	60	世界経済事情	68	情報学	100 複素数の計算(ド・モアブルの定理)
29	70	近年の世界の動向	29	66	法律行為	69	情報学	100 分数式の値
30	59	近年我が国における法改正	30	90	不動産物権変動	70	情報学	100 無限級数の計算
31	29	波動	31	82	債権者代位権	71	情報学	100 TCP/IPモデルにおけるプロトコル
32	60	天然高分子化合物	32	87	不法行為	72	情報学	100 キャッシュメモリのヒット率
33	67	細胞の構造	33	89	婚姻	73	情報学	100 稼働率
34	46	我が国の文化	34	47	株主総会	74	工学	0 フローチャート
35	64	18～19世紀フランス	35	89	期待値	75	工学	0 アルゴリズムにけるオーダ記法
36	59	ヨーロッパの思想	36	22	不偏分散	76	工学	100 情報セキュリティ要素における完全性
37	80	世界の農業	37	56	回帰直線	平均点 ～データリサーチより～ 基礎能力試験 24.8 専門統一試験 26.8		
38	52	自由権総合	38	56	平均と分散			
39	79	我が国の司法制度	39	78	信頼区間			
40	38	冷戦終結後の国際社会	40	22	検定統計量と帰無仮説			

※ 正答率(%)は小数点第1位を四捨五入しています。

※ 正答率 60%以上は網掛けで示しています。

2021 年

基礎能力試験

専門試験

専門試験

No	正答率(%)	出題テーマ	No.	正答率(%)	出題テーマ	No.	正答率(%)	出題テーマ
1	現文	93 内容合致	1	憲法	90 幸福追求権	41	政治学	94 エリート理論等
2		76 内容合致	2		51 経済的自由権	42		63 エスピン＝アンデルセンの福祉国家
3		82 内容合致	3		55 社会権	43		69 マスメディアの影響力
4		90 内容合致	4		93 国会	44		45 社会調査
5		71 空欄補充	5		77 司法権	45		87 フーコーの権力論
6		82 文章整序	6		97 地方自治	46		81 R.K.マートン
7	英文	70 内容合致	7	行政法	51 行政裁量	47	会計学	78 会計の基礎
8		39 内容合致	8		43 行政指導	48		56 会社の設立と純資産会計
9		66 内容合致	9		80 行政計画	49		100 引当金
10		72 文章整序	10		60 行政不服審査法	50		100 有価証券
11		29 空欄補充	11		82 処分性	51		44 企業財務分析
12	判断	50 集合	12		90 訴えの利益	52	経営学	56 固定費と変動費の分解
13		50 円卓	13		92 国家賠償法	53		86 経営戦略
14		78 時間割	14		77 国有財産法	54		84 動機づけ理論等
15		88 順序	15	81 効用最大化(計算)	55	67 リーダーシップ論		
16		70 対応	16	28 2要素生産関数(計算)	56	64 製品開発及び生産管理		
17		81 トーナメント	17	78 クールノー・モデル(計算)	57	56 株式会社		
18		空間	56 平面ジグソー	18	62 2期間モデル(計算)	58		58 企業活動
19	29 正多面体		19	58 総供給関数(計算)	59	86 内容合致		
20	数的	51 確率	20	84 成長会計方程式(計算)	60	英語	82 内容合致	
21		70 濃度	21	88 従価税の余剰分析(計算)	61		75 内容合致	
22		61 整数	22	44 公共財(文章)	62		75 文章整序	
23		61 図形の計量	23	88 我が国の財政制度	63		11 空欄補充	
24		62 平均	24	80 国債	64		32 空欄補充	
25	資料	86 実数と割合(グラフ)	25	92 我が国の財政状況	65	情報数学	87 10進法の除算結果の2進法への変換	
26		74 実数(表)	26	82 財政史	66		93 集合記号とベン図	
27		76 複数の表・グラフ	27	72 日本経済事情	67		53 回転行列と対角行列の積のn乗	
28	時事	73 我が国の生物をめぐる動向	28	61 世界経済事情	68	情報工学	40 演算と群の定義	
29		85 2020年のCOVID-19の動向	29	80 意思表示	69		87 n乗数と規則性	
30		62 近年の経済・金融等	30	72 留置権	70		53 三角関数のn階微分の特殊値	
31	自然	63 消費電力	31	84 許害行為取消権	71	情報学	100 DNS	
32		64 酸化還元	32	75 賃貸借	72		100 主記憶の実効アクセス時間	
33		74 免疫	33	69 相続	73		0 システムの稼働率	
34	人文	88 我が国と中国王朝の関係	34	商法	82 役員等の会社に対する責任	74	100 デジタル署名	
35		51 中世ヨーロッパ	35	統計学	53 標準偏差	75	100 フローチャート	
36		46 世界の気候と森林	36		68 相関係数	76	100 二要素認証	
37	56 我が国の仏教思想家	37	68 確率		平均点 ～データリサーチより～ 基礎能力試験 28.9 専門択一試験 29.0			
38	93 内閣	38	37 正規分布					
39	86 IS-LM 分析	39	47 信頼区間					
40	68 国際連合	40	58 棄却域と帰無仮説					

※ 正答率(%)は小数点第1位を四捨五入しています。

※ 正答率 60%以上は網掛けで示しています。

2020 年

基礎能力試験

専門試験

専門試験

No	正答率(%)		出題テーマ	No.	正答率(%)		出題テーマ	No.	正答率(%)		出題テーマ
1	現 文	86	内容合致	1	憲 法	69	人権の享有主体	41	政 治 学	63	政治思想
2		75	内容合致	2		92	法の下の平等	42		77	議会と政党
3		94	内容合致	3		95	思想及び良心の自由	43		18	国際政治
4		84	内容合致	4		75	内閣	44	39	現代社会の理論	
5		53	文章整序	5		92	財政	45	83	クーリーの「鏡に映った自我」	
6		75	空欄補充	6		88	地方自治	46	84	シンボリック相互作用論	
7	英 文	74	内容合致	7	行 政 法	86	行政行為と裁量	47	会 計 学	75	我が国の企業会計原則
8		75	内容合致	8		75	行政手続法上の申請に対する処分	48		67	資産の分類や評価等
9		73	内容合致	9		77	情報公開法	49		75	有形固定資産の減価償却と固定資産の減損
10		77	文章整序	10		52	行政不服審査法上の不服申立て	50		50	税効果会計や損益会計
11		43	空欄補充	11		89	行政事件訴訟における訴えの利益	51		50	財務諸表
12		66	命題	12		72	行政事件訴訟法上の執行停止	52		50	連結財務諸表
13	判 断	67	位置関係	13	経 済 学	92	国家賠償	53	経 営 学	76	意思決定論
14		86	順序(順位変動)	14		76	国有財産法	54		90	経営組織論
15		75	順序(任期)	15		76	消費者理論総合問題(組合せ)	55		90	経営戦略論
16		60	対応	16		72	二重価格制度(図解)	56		70	マーケティング論
17		59	位置関係	17		10	混合戦略ナッシュ均衡(計算)	57		74	我が国の企業経営
18		45	軌跡	18		70	国民経済計算(計算)	58		90	国際経営
19	空 間	46	多面体	19	財 政 学	81	デフレ・ギャップ(計算)	59	英 語	63	内容合致
20	数 的	78	方程式	20		86	貨幣乗数(計算)	60		71	内容合致
21		56	図形の計量	21		64	財政理論(組合せ)	61		84	内容合致
22		53	割合	22		66	課税理論	62		71	文章整序
23		78	確率	23		77	我が国の税制(組合せ)	63		79	空欄補充
24		48	規則性	24		79	財政投融资	64		50	空欄補充
25		資 料	67	複数のグラフ	25	68	我が国の財政状況	65	情 報 数 学	50	16→4進法への変換と桁数の最大値
26	63		複数の表	26	81	一般会計予算の推移	66	67		集合(ド・モルガンの法則)	
27	64		複数のグラフ・表	27	72	我が国の財政・金融動向	67	50		平面ベクトル(長さの最大値)	
28	時 事	43	我が国の交通等	28	44	各国の経済成長率(組合せ)	68	67		三角(関数)方程式の解の個数	
29		68	文化財	29	民 法	91	時効	69		17	連鎖行列積問題
30		61	最近の国際情勢	30		67	即時取得	70		67	群数列
31	自 然	19	速度の分解	31		70	債権譲渡	71	100	UDP	
32		59	状態変化	32		80	請負	72	100	音声符号化	
33		72	植物の環境応答	33		27	婚姻	73	0	共通鍵暗号方式	
34	人 文	59	我が国における一揆	34		商法	54	株主代表訴訟	74	情 報 工 学	100
35		73	第二次世界大戦後の冷戦	35	統 計 学	94	平均と分散	75	0		ブロードキャストアドレス
36		78	ケッペンの気候区分	36		25	平均と分散	76	100		リスクベース認証
37	63	わが国の思想家	37	75		相関係数	平均点 ～データリサーチより～ 基礎能力試験 26.3 専門択一試験 28.9				
38	63	法の支配や人権	38	63		条件付確率					
39	74	物価関連	39	56		信頼区間					
40	81	情報化社会	40	63		t検定と帰無仮説					

※ 正答率(%)は小数点第1位を四捨五入しています。

※ 正答率 60%以上は網掛けで示しています。

5. 情報収集

財務専門官の情報収集

■ 人事院ホームページ（国家公務員採用情報 NAVI）

<https://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.html>

■ 財務省財務局ホームページ

https://www.mof.go.jp/about_mof/recruit/zaimu/saiyou.htm

➡ 試験情報から各種イベントまで様々な情報を収集することができます。ホームページを定期的にチェックしておきましょう。

■ T A C 公務員講座主催 官公庁・自治体講演会

https://www.tac-school.co.jp/kouza_komuin/komuin_setumeikai.html

➡ 採用試験制度の仕組み、職員の業務内容、若手職員に期待すること、入庁後のキャリアプランなど、採用試験のご担当者から直接ご説明いただきます（普段着で出席できます）。例年、秋以降から実施していきます、詳細は TAC WEB SCHOOL で案内が出ますのでご確認ください。

■ 復元シート（各校舎・TAC WEB SCHOOL で資料閲覧）

➡ 過年度の筆記試験や人物試験・職場訪問などの復元シートが閲覧できます。校舎で閲覧する場合は受付で会員証を提示の上で申し出てください。TAC WEB SCHOOL で閲覧する場合は「学習フォロー」の中の「デジタル教材」をクリックして確認してください。

■ 直前期オプション講座：会計学コンパクト（有料）

➡ 会計学の対策について頻出テーマに絞った集中講義（全 4 回）。会計学（択一）であと 3 点を狙うピンポイントの出題予想講義です。専門試験で会計学を選択する方は検討してください。

6. 参考資料（面接カード）

面接カード（専門職大卒） 2022

事前に記入して人物試験当日に持参してください。

・ボールペン（自筆）で記入してコピーを2部取り，原本と併せて3部を人物試験当日に持参してください。（様式を変更しないでください。該当する□には✓を付けてください。）

・出身校や会社名などが特定されるような記入は避けてください。

※このカードは，人物試験の際に質問の参考資料として使用するものであり，記入内容が直接評価に影響することはありません。

試験の区分	第1次試験地	受験番号	ふりがな 氏 名
[最終学歴] ☐ 大学 ☐ 大学院 (課程) ☐ その他 ()			[職 歴] ☐ ある ☐ ない (主な職種)
☐ 修了・卒業 (年 月) ☐ 在学 (年 月 修・卒見) ☐ 中退 (年 月)			

[志望動機・受験動機]

[専攻分野・得意分野] 学業や職務経験を通じたもの（あれば，専攻演習，卒業・修士論文のテーマ等）

[最近関心や興味を持った事柄] 社会生活，時事問題，社会情勢など

[印象深かったこれまでの体験] 学校生活や職務，ボランティア活動，アルバイトなどの体験を通じて

[自己PR] 長所や人柄について

[趣味，特技など]